

教育・文化

九小通学路の安全対策

津本裕子議員(公明) 九小学区内に新たに病院の建設が始まり、九小の通学路は大型車の出入りが非常に多くなっている。何らかの交通安全対策や危険箇所のチェックはしているか。通学路の路側帯の内側にグリーンの塗装はできないか。

東たかの道と鈴木西通りの交差点にある信号機に、歩行者用の補助信号をつけられないか。

大型車の通行時間の規制はできないか。

教育長 登校時間帯には工事車両は通行しないことなど、安全の確保に十分に配慮してもらっている。

市長 検討していきたい。警察に聞いたところ、検討したいとのことである。

仮に規制をかけても、関係車両には通行を許可せざるを得ないとのことである。

十二小通学路を子どもたちが安全に通えるようにしたい

立花隆一議員(公明) 十二小通りの車両通行と事故の実態は、どのような安全対策を講じているか。具体的事例は。

いわゆる農道の通学路で子どもを痴漢や不審者から守る対策は、地域との連携はどうか。

土地区画整理事業の計画の中で、どのような安全策が考えられているのか。

教育長 規制があるにもかかわらず通過する車両がある。今年5月に接触事故があった。ガードパイプの設置等を行った。

不登校の子ども居場所

岩本博子議員(緑ネ) 不登校児童・生徒数の推移と現状は、あゆみ教室に通う人数の推移と現状は、指導員の数と資格は、また現状の課題は。

不登校の子どもたちの、あゆみ教室以外の居場所の現状は、あゆみ教室の移転を契機に、どう課題を改善する考えか。その際、子どもや保護者の意見を反映する予定はあるか。

教育長 小・中学生ともに平成14年度は小学生4人、中学生42人である。相談員ほか計8人の体制である。課題は個に応じたきめ細かい指導である。不登校の背景等に応じて居場所は一人一人異なり、きめ細かく見ていくことが重要である。入級希望の増加への対応や指導の充実が期待できる。また保護者会等で要望を聞いている。

市内小・中学生の学力問題

島村雄雄議員(政和) 学力をどうとらえているのか。

文部科学省が行った教育課程実施状況調査で、どのような課題が出てきたのか。

小平市でも学力低下が見られるのか。データはあるのか。学力テストを行う予定は。

現在、学力向上のため、どのような対策をとっているのか。今後についてはどうか。

教育長 知識のみでなく、学ぶ意欲等を含めたものと考え。一部の教科で正答率が下がった。今後の課題としたい。

小・中学校の耐震補強工事の早期完了

高橋三男議員(フォ) 小・中学校の耐震補強工事を終了した分の費用の内訳は、未実施分についてはどうか。耐震工事が必要の学校はどうか。国庫補助の特別措置の有効を図っており、今後も充実したい。

市独自のデータはないが、国と同様の傾向と考えている。国や都の調査を活用する予定で、市独自で行う予定はない。

少人数指導等で学力向上を図っており、今後も充実したい。

学校の校庭の芝生化

佐野都夫議員(政和) 校庭の芝生化は、環境面から国も取り組みを推進し、防じん対策として、また教育上・健康保全上の効果など大きな意義があり、早期に実現すべき課題と考える。すでに杉並区では大きな効果をj得ており、こうした社会の要請にどうこたえるか、実現のための課題と今後の取り組み方針は。

教育長 芝生化の意義は認識しているが、芝生を良好に維持するには、管理の費用と時間が必要である。また芝生化には多額の経費が必要で、整備工事中の代替地確保の課題等もある。現在は、校庭の芝生化を試行している他の自治体を見守りたい。

青少年のスポーツの充実

立花隆一議員(公明) 完全学校週5日制施行後の放課後・休日の学校開放などの実態は。

小・中学校のクラブ・部活動の課題とその対応は。

話題となった旧小川東小スケートボード場設置の検討状況は、そのほかに、スポーツ公園の検討はできないか。

フットサル場建設計画の経過と計画案は。

教育長 従来より十分に利用されており、大きな変化はない。

小・中学校等で使用する石けん類の安全性

岩本博子議員(緑ネ) 小・中学校の手洗い用石けん、小学校給食室の石けん類の購入方法はどうなっているか。

給食センターの食器・なべ等の洗浄には何を使っているか。石けん類を購入する際、業者や品目はどこがどのような基準で選択しているか。

児童・女性

常松大介議員(緑ネ) 少子化に歯どめをかけることが、市の発展のキーワードと考える。保育園待機児童数をどう認識しているか。

合計特殊出生率はどう推移すると予測しているか。

1人の子どもの出生から義務教育終了まで、行政コストはどのくらいかかるか。また、その親からの税収は幾らか。

市長 数字的には6年前の水準になっており、受け皿整備の成果が出てきたと考えている。減少していくと考えている。

少子化対策

木村まゆみ議員(共産) 心身障害者級の正規の教員と臨時の教員をどう活用しているか。

適切な勤務管理が行われるよう指導していく。

市立保育園の緊急一時保育の現状は。

市長 厳しい財政状況から、現行基準で実施していきたい。拡充は困難な状況と考える。施設は設計の段階である。センターを中心に連携し、子育て支援、虐待防止等を図りたい。平成14年度は児童延べ46人、延べ43日の利用があった。

児童・女性

西克彦議員(共産) 乳幼児医療費助成、所得制限撤廃年齢の引き上げ

華表 曉議員(共産) 保育園待機児童数とその対応は。

十五小児童クラブ室工事の進捗状況と、定員ぎりぎりの二小児童クラブへの対応は。

小・中学校の補修工事や耐震整備の進捗状況は。

教育基本法をどう考えるか。少人数学級の早期実現について、市としての意向は。

学校公開週間の公開状況は、開かれた学校に結びつくのか。

市長 7人で、取り組みの成果があらわれてきた。引き続き必要対応を図っていく。

十五小は夏休みから新クラブ室で運営したい。二小は児童数の推移等を見きわめたい。

教育長 緊急を要するものは適時対応しており、屋上防水等は計画的に改修している。耐震補修工事も順調に進めている。すべての教育がこれに基づいて行われると考えている。

市単独では困難である。

平成14年度の参観者総数は約4万4千人で、開かれた学校づくりに効果を発揮している。

児童館の評価と今後の建設計画

佐藤 充議員(共産) 花小金井南児童館の運営内容、利用状況、評価は。2階にあり狭いなど児童館としては不十分と思うが、今後は独立館として建設する必要があるのでないか。

2館目・3館目の着工・完成予定、運営計画はどうか。

4館目以降の建設計画は。児童館運営委員会での検討内容は、どう受けとめているか。

市長 利用が多く、子どもの健全育成の拠点となっている。今後も小型児童館として、地域センター併設で設置予定である。2館目は平成18年度中の開館を目指し、3館目は小川町一丁目土地区画整理事業地内に、今後建設計画を検討したい。

3館目の体制を考えており、4館以降の建設は考えていない。多くの貴重な意見を得て、日常の児童館運営を行っている。

子ども家庭支援センターの市民参加による検討など

西克彦議員(共産) 子ども家庭支援センターの検討の場である子育て支援協議会について、どのように進めるのか。

委託による運営と聞くと、少なうともセンター長は市職員であるべきと思うがどうか。

センターの役割は、ネットワークづくりと効果的運用がきと考えるがどう進めるか。

センターと青少年プラン等との関係は、次世代育成支援を担うと考えるがどうか。

市長 公募の市民や関係機関の代表が委員になる予定で、広い意見が得られると考えている。より専門知識がある委託法人の職員が適切と考えている。中心的な機関として、ネットワークを構築する予定である。プランでは中心的存在と位置づけられており、次世代育成支援対策の中でも期待されている。

乳幼児医療費助成、所得制限撤廃年齢の引き上げ

西克彦議員(共産) 乳幼児医療費無料化制度とその所得制限の撤廃について、その趣旨等の評価は。23区並みに就学前まで所得制限の撤廃ができないか。

市長 子育ての支援に資することを目的とした制度で、所得制限は都基準より有利な内容である。現在の財政状況から、現行の基準で実施していきたい。市民便利帳や市報等でPRに努めているので、提案の件については考えていない。

フットサル場の整備予定地(小川グラウンド)



指導者の専門性等が課題で、外部指導員制度で支援している。旧小川東小は検討の結果、設置しないこととした。スポーツ公園は財政的に困難である。小川グラウンドの東側部分の土地を所有者に返還することとなったため、西側部分を整備するものである。

指導者の専門性等が課題で、外部指導員制度で支援している。旧小川東小は検討の結果、設置しないこととした。スポーツ公園は財政的に困難である。小川グラウンドの東側部分の土地を所有者に返還することとなったため、西側部分を整備するものである。

障害児学級介助員の勤務条件改善を

木村まゆみ議員(共産) 心身障害者級の正規の教員と臨時の教員をどう活用しているか。

適切な勤務管理が行われるよう指導していく。

市立保育園の緊急一時保育の現状は。

市長 厳しい財政状況から、現行基準で実施していきたい。拡充は困難な状況と考える。施設は設計の段階である。センターを中心に連携し、子育て支援、虐待防止等を図りたい。平成14年度は児童延べ46人、延べ43日の利用があった。

子ども家庭支援センターの市民参加による検討など

西克彦議員(共産) 子ども家庭支援センターの検討の場である子育て支援協議会について、どのように進めるのか。

委託による運営と聞くと、少なうともセンター長は市職員であるべきと思うがどうか。

センターの役割は、ネットワークづくりと効果的運用がきと考えるがどう進めるか。

センターと青少年プラン等との関係は、次世代育成支援を担うと考えるがどうか。

市長 公募の市民や関係機関の代表が委員になる予定で、広い意見が得られると考えている。より専門知識がある委託法人の職員が適切と考えている。中心的な機関として、ネットワークを構築する予定である。プランでは中心的存在と位置づけられており、次世代育成支援対策の中でも期待されている。

子ども家庭支援センターの市民参加による検討など

西克彦議員(共産) 子ども家庭支援センターの検討の場である子育て支援協議会について、どのように進めるのか。

委託による運営と聞くと、少なうともセンター長は市職員であるべきと思うがどうか。

センターの役割は、ネットワークづくりと効果的運用がきと考えるがどう進めるか。

センターと青少年プラン等との関係は、次世代育成支援を担うと考えるがどうか。

市長 公募の市民や関係機関の代表が委員になる予定で、広い意見が得られると考えている。より専門知識がある委託法人の職員が適切と考えている。中心的な機関として、ネットワークを構築する予定である。プランでは中心的存在と位置づけられており、次世代育成支援対策の中でも期待されている。

乳幼児医療費助成、所得制限撤廃年齢の引き上げ

華表 曉議員(共産) 保育園待機児童数とその対応は。

十五小児童クラブ室工事の進捗状況と、定員ぎりぎりの二小児童クラブへの対応は。

小・中学校の補修工事や耐震整備の進捗状況は。

教育基本法をどう考えるか。少人数学級の早期実現について、市としての意向は。

学校公開週間の公開状況は、開かれた学校に結びつくのか。

市長 7人で、取り組みの成果があらわれてきた。引き続き必要対応を図っていく。

十五小は夏休みから新クラブ室で運営したい。二小は児童数の推移等を見きわめたい。

教育長 緊急を要するものは適時対応しており、屋上防水等は計画的に改修している。耐震補修工事も順調に進めている。すべての教育がこれに基づいて行われると考えている。

市単独では困難である。

平成14年度の参観者総数は約4万4千人で、開かれた学校づくりに効果を発揮している。

児童館の評価と今後の建設計画

佐藤 充議員(共産) 花小金井南児童館の運営内容、利用状況、評価は。2階にあり狭いなど児童館としては不十分と思うが、今後は独立館として建設する必要があるのでないか。

2館目・3館目の着工・完成予定、運営計画はどうか。

4館目以降の建設計画は。児童館運営委員会での検討内容は、どう受けとめているか。

市長 利用が多く、子どもの健全育成の拠点となっている。今後も小型児童館として、地域センター併設で設置予定である。2館目は平成18年度中の開館を目指し、3館目は小川町一丁目土地区画整理事業地内に、今後建設計画を検討したい。

3館目の体制を考えており、4館以降の建設は考えていない。多くの貴重な意見を得て、日常の児童館運営を行っている。



十二小から東側に延びる通学路